

# ひらけゴマ!

しずおかしりつとしょかん 静岡市立図書館 Vol . 118 (2014秋号) あきごう

とくしゅう だいこん  
特集 大根

## 「まるごとだいこん」



はった なおこ こうせい ぶん  
八田 尚子 / 構成・文  
のむら まりこ こうせい え  
野村 まり子 / 構成・絵  
おおたけ みちしげ かんしゅう  
大竹 道茂 / 監修  
えほんじゅくしゅつばん  
絵本塾出版

626.44

ハ

しろく、あっさりした味わいの大根ですが、  
にほんじん にはなくてはならない存在です。  
そんざい

にほん だいこん しゅるい がいこく だいこん  
日本の大根の種類から、外国の大根、  
ねんじゅうぎょうじ いま はたけ だいこん ちようほう りょうり  
年中行事、今の畑の大根のこと、貯蔵法、料理  
など、だいこん をまるごと知りつくそう。



ことわざクイズ! どんないみ?

「まかめ種は生えぬ」  
たね は

☆こたえはいちばんさいごのページ

# えほん 「にんじんとごぼうとだいこん」

にほんみんわ  
日本民話

わかやま しずこ え すずきしゅっぱん  
和歌山 静子/絵 鈴木出版

E ワカヤ

はじめは、みんな黒<sup>くろ</sup>かったのに、にんじんは  
あか、ごぼうは黒<sup>くろ</sup>く、だいこん<sup>だいこん</sup>はしろ<sup>しろ</sup>くなったのは  
ななぜ？

にほん ぶん につた むかしはなし  
日本に古くから伝わる昔話です。



# えほん 「かいわれざむらいとだいこんひめ」

かわきた りょうじ ぶん くにかまつ え どうしんしゃ  
川北 亮司/文 国松 エリカ/絵 童心社

E クニマ



だいこんじょうでは、ひめがいなくなりおお  
さわぎ。そこへ、かいわれざむらいたちがやっ  
てきて、ちから<sup>ちから</sup>をあ<sup>あ</sup>わせてひめさがし。さて、だ  
いこんひめはいすこに…。

「かいわれわれ かいわれわれ…」とさむら  
いたちの動きとリズムが楽しい絵本です。

# えほん 「だいこんどのむかし」

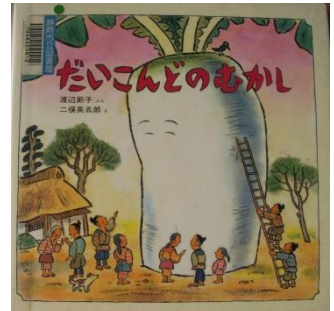
わたなべ せつこ ふたまた えいごろう え ほるぶ しょっぱん  
渡辺 節子/ぶん 二俣 英五郎/え ほるぶ出版

E フタマ

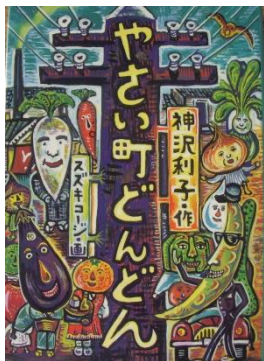
むかし、ある村で野菜が育たない年、たった一つ  
だけめでた<sup>めでた</sup>いのがだいこん<sup>だいこん</sup>。おが、おが、おがと  
おお<sup>おお</sup>くなっただいこん<sup>だいこん</sup>は、あらし、おおゆき<sup>おおゆき</sup>からも村を  
まもってくれました。

けれどもそのうち村人はだいこん<sup>だいこん</sup>をないがしろに  
するように…。

むら<sup>むら</sup>は、どうなってしまうのでしょうか。



『<sup>まち</sup>やさい町<sup>まき</sup>どんどん』より 「<sup>あさゆ</sup>朝湯の<sup>す</sup>好きな<sup>だい</sup>だいこん<sup>さん</sup>の<sup>巻</sup>巻」



かんざわ としこ さく  
神沢 利子 / 作

スズキ コージ / 画 福音館書店

あお 913

カンサワ

やさい<sup>まち</sup>町の<sup>じゅうにん</sup>住人、<sup>ながや</sup>長屋の<sup>おおや</sup>大家さんの<sup>だいこんだん</sup>だいこんだん  
な<sup>あさぶる</sup>は朝風呂が<sup>だいす</sup>大好き。その<sup>ひ</sup>日も<sup>せんとう</sup>せんとうに<sup>で</sup>でかけて  
い<sup>きます</sup>きます。そこで<sup>であ</sup>出会った<sup>ちょうない</sup>町内の<sup>めんめん</sup>面々と<sup>ひと</sup>ひと<sup>も</sup>もん  
ちやく…。

<sup>ちょうし</sup>調子の<sup>えど</sup>いい江戸っ子<sup>こくちょう</sup>口調で<sup>はなし</sup>お話を<sup>す</sup>すすんで  
い<sup>きます</sup>きます。

『<sup>あわ</sup>安房<sup>なおこ</sup>直子<sup>さく</sup>コレクション3 <sup>どうぶつ</sup>もの<sup>だいこん</sup>いう<sup>だいこん</sup>動物<sup>たち</sup>の<sup>すみか</sup>すみか』より

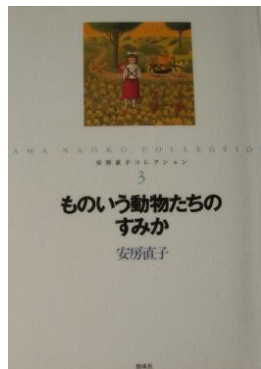
「<sup>ふろ</sup>ふろ<sup>ふき</sup>大根<sup>の</sup>の<sup>ゆうべ</sup>ゆうべ」

あわ なおこ さく  
安房 直子 / 作

きたみ ようこ え かいせいしゃ  
北見 葉胡 / 画 偕成社

あお 913

アワ



いの<sup>し</sup>しに<sup>だいこん</sup>大根<sup>を</sup>あげたら、<sup>ふろ</sup>ふろ<sup>ふき</sup>大根<sup>の</sup>の<sup>ゆうべ</sup>ゆうべ  
に<sup>しょうたい</sup>招待<sup>された</sup>された<sup>もへい</sup>茂平<sup>さん</sup>さん。

“<sup>ふろ</sup>ふろ<sup>ふき</sup>大根<sup>の</sup>の<sup>ゆうべ</sup>ゆうべ”<sup>って</sup>って<sup>なん</sup>何<sup>だ</sup>だ<sup>らう</sup>らう。

<sup>にんげん</sup>人間<sup>と</sup>と<sup>どうぶつ</sup>動物<sup>たち</sup>の<sup>こころ</sup>心<sup>あたた</sup>温<sup>まる</sup>まる<sup>こうりゅう</sup>交流<sup>の</sup>の<sup>はなし</sup>お話を<sup>す</sup>すすんで

「<sup>おもしろ</sup>おもしろ<sup>ふしぎ</sup>ふしぎ<sup>にほん</sup>日本の<sup>でんとうしょくざい</sup>伝統<sup>食材</sup>食材③ <sup>だいこん</sup>だいこん」

おくむら あやお / 作

なかがわ がく え はぎわら はじめ しゃしん  
中川 学 / 絵 萩原 一 / 写真

のうさんぎょそんぶんかぎょうかい  
農山漁村文化協会

596.3

オ



<sup>にほんじん</sup>日本人<sup>にな</sup>にな<sup>じみ</sup>じみの<sup>ふか</sup>深い<sup>だいこん</sup>大根<sup>なま</sup>。生<sup>で</sup>で<sup>よし</sup>よし、煮<sup>て</sup>て<sup>よし</sup>よし、  
焼<sup>いて</sup>いて<sup>よし</sup>よし、<sup>しゅやく</sup>主役<sup>から</sup>から、<sup>わきやく</sup>脇役<sup>まで</sup>まで<sup>こな</sup>こな<sup>す</sup>す<sup>だいこん</sup>大根<sup>の</sup>の<sup>おい</sup>おい  
しい<sup>た</sup>食<sup>べ</sup>べ<sup>かた</sup>方が<sup>の</sup>の<sup>って</sup>っている<sup>ほん</sup>本<sup>です</sup>です。

<sup>だいこん</sup>大根<sup>の</sup>の<sup>ふる</sup>ふる<sup>さと</sup>さと<sup>や</sup>や<sup>食</sup>食<sup>の</sup>の<sup>れきし</sup>歴史<sup>もの</sup>もの<sup>って</sup>っています。

# ごまはかせ と こま太くんの どうやってしらべるの？



こま太くん

こまったなー、こまったなー。はかせ、  
朝読書の時間があるんだけど…。

ほっほっほ。それは楽しそうじゃのう。



ぼく、どんな本を読んだらいいかわからな  
いんだよ。おもしろそうな本ないかなあ。



こま太くん、本を紹介している本があるの  
を、知っているかい？

えー、そんな本があるの！



ごまはかせ



〇の総記の棚に行ってください。

テーマ、作者、タイトルなどにわかれて本を紹介して  
いるんじゃ。興味のあるところを開いてみると、本の表紙や  
簡単な内容が書いてあるぞ。



すごーい、ぼく、読みたい本がいっぱい見つかった。  
朝読書の時間が楽しみになってきたよ。

うむ。たくさん本を読んで、知識と可能性を  
広げていくんじゃよ。



表紙の  
こたえ

種をまかなければ、植物は生えないことから、  
何もしなければ、よい結果は期待できないという意味。